

日新林業 株式会社

創 業 昭和22 (1947) 年10月8日

代表者 代表取締役 又賀 航一

社員数 20名 (男16名 女4名)

本 社 島根県松江市殿町383

事業内容

国産材・外材の原木調達、山林管理経営、
合板・製材品の仕入れ・販売、合板二次加工

勤務地(採用エリア)

境港市、飯石郡

採用区分

新卒採用

キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 日新グループとして1日・5日・Webの3
種を実施。詳細や申込はマイナビ・リク
ナビから。

採用担当者からあなたへ

日新グループの中では少数精鋭の会社です
ので、多様な業務に携わることができます。
現在、山林部、加工部、原木部で人材を
募集しています。さまざまなことに興味を持
ち、積極的にチャレンジできる方、
木材を通じてものづくりや社会
に関わりたい方はぜひお問合せ
ください。

原木部 課長
足立 健さん

採用に関するお問い合わせ先

0859-44-3311

公式サイトは
こちら



リクナビは
こちら



マイナビは
こちら



山から工場へ、バトンをつなぐ人たち

高性能林業機械を操作し、 効率的な伐採作業に従事

祖父が、山の職人とも言われる「山師」だった
こともあり、小さい頃から山が日常の遊び場だった
森山さん。季節によって表情を変え、さまざまな
植物の姿や鳥の声を見聞きできる環境が心地よ
く、自然の中で働きたいという想いから林業を仕
事に選んだ。

地元の森林組合などで約25年間林業に従事。
以前の職場ではチェーンソーを使った伐採がメイン
だったが、転職後は高性能林業機械を使った作業
が大幅に増えた。主に操作するのは、伐採から枝
払い、玉切りまでを一貫して行えるハーベスタ重
機。「最初は15～20メートルもの長い丸太をバラ
ンスよくつかむのが難しく、大変でした」と苦笑い
するが、今では別の機械の技術講習受講が楽しい
です。

高性能林業機械には運転席に空調設備があり、
体への負担も減った。でも一番好きな作業は
チェーンソーでの伐採だという。「木の種類や幹の
大きさ、立地などに応じてくさびを打ち、数十メー
トルの木を伐採できた時の気持ち良さは圧巻です」



山林部
森山 信洋さん(41)
2024年入社



ワークライフバランスを実現でき、 目標を持ってスキルアップできる職場

米子市内で9年間、保育士として働いていた平
野さん。子どもの成長を間近で感じられる仕事に
はやりがいを覚えていたが、就職10年目を前に、
全く違う業界に挑戦する気持ちも芽生えていた。
休日などを活用して取得していたフォークリフトの
資格を生かせる職場として入社。「休憩をしっかり
取れて、残業も少ないという点にも惹かれました」

グループ会社が製造した合板をカットしたり、撥
水加工したりして、付加価値を付けて販売するの
が加工部の仕事。平野さんは、加工前の合板の搬
入から、加工後の各種合板の保管まで、主に工場
内での運搬作業を担当。倉庫と工場、外を一日中
移動するとあって、「一番苦労しているのは暑さで
す」と苦笑する平野さん。熱中症には気をを使う。

機械を使った加工作業にも挑戦。一度に何枚も
の板材を挽けるギャングソー作業や撥水加工など
はまだ無理だが、合板を一枚ずつカットするパネル
ソーは扱えるようになった。さらに、大型特殊自動
車免許を取得するなど、仕事の幅を広げている。
「目標があるのはモチベーションにつながります」



加工部
平野 智啓さん(34)
2023年入社



2



3



4

1 日新グループが保有する自社林の面積は東京ドーム約210個分 2 8000キロ離れたカナダから、境港や浜田の港に原木を積んだ船が到着する 3 カナダの取引先訪問時の集合写真
4 「山仕事から貿易実務までさまざまな業務があるのが当社の特徴。好奇心の強い人に来てほしい」と鈴木専務

09
LEADING COMPANY

日新林業 株式会社

● 木材卸売／山林経営／合板卸売／合板二次加工

受け継がれてきた大切な山の資源 価値をつなげ、高めて、生かす

《日新林業株式会社》は、国内外からの原木調達の他、日新グル
ープの自社林約1000haの山林経営、合板に付加価値加工を行う
部署があり、木に関わる多彩な事業で活躍する人材を求めている。

自社林で循環型林業を推進
国内外からの原木調達も

広大な自社林を保有する《日新林
業株式会社》。山林部が実践してい
るのが、循環型林業経営だ。山林部
では苗木の値付けや下刈りを外注し、
除伐などの森林整備、利用できる大
きさに成長した木の伐採までを行っ
ている。一昨年には高性能林業機
械を複数台導入し、従来委託してい
た伐採業務も社員が中心となって従

た伐採業務も社員が中心となって従
業株式会社に。山林部が実践してい
るのが、循環型林業経営だ。山林部
では苗木の値付けや下刈りを外注し、
除伐などの森林整備、利用できる大
きさに成長した木の伐採までを行っ
ている。一昨年には高性能林業機
械を複数台導入し、従来委託してい
た伐採業務も社員が中心となって従

事。循環型林業サイクルがより円滑
に回るようになった。「PDCAサ
イクルを行う中で、難しかったC
(確認)やA(改善)が行いやすくなり
ましたね」と鈴木専務は語る。
一方、県境や国境を越えたスケ
ールの大きな業務を行っているのが原
木部だ。輸入材はカナダの大手サプ
ライヤーから、国産材は中国・九州
地方などから調達。顧客からの要望
をダイレクトに伝え、森林の様子な
ども確認するため、担当者は定期的
に現地に足を運ぶ。鈴木専務も年に
数回はカナダへ渡航するという。
さらに、グループ会社が製造した
合板を加工する加工部や、海外から
仕入れた広葉樹材や規格外の合板を
販売する製材・合板部なども抱えて
おり、業務は多岐にわたる。「山
での仕事から貿易や買い付け業務ま
でさまざま。現場での作業も機械化
によって以前より大幅に省力化され
ています。門戸が広い会社だと自負
しています」と鈴木専務。資源とし
てのありがたみを重視し、地球環境
に配慮したSGECC認証・PEFC
認証・FSC認証木材の積極的な使
用を進めている。「工場に丸太が届
くのは当たり前じゃない。手間と時
間をかけ、苦労して育て上げた大切
な資源だということを常に忘れず
に木と向き合っていきたいですね」